

パキスタン・2000年 クンジュラブ峠・4934mのヤク

カラコルムハイウェイのパキスタン側の終点はクンジュラブ峠である。ここは中国との国境になっていて、この峠を下れば中国の西域であるカシュガルからタリム盆地につながる。インダス川を三日かけてさかのぼり、ギルギットとシャングリラと言われているフンザを訪れた際にクンジュラブ峠まで足を伸ばした。高度5000m弱の高地である。バスで近くまで行って、中国との国境まで歩いてみたが、酸素濃度が半分以下の高地なので心臓の鼓動が聞こえるくらい大きく早い。体がふわふわと浮いているようで、雲の上を歩いている感じた。

周囲は一面の雪原であったが、こんな場所でもヤクの放牧がされていた。ヤクはこのあたりでは貴重な家畜である。毛皮は衣類として、ミルクと肉は食用で、乾燥肉は保存食にもなる。こんな場所でも雪から草を掘って食べているのだろうか？すごい生命力である。



(写真 2-2-1) 国境の標識。



(写真 2-2-2) 国境の柵

日本は四方海に囲まれているので、国境の標識を見ることはない。峠の分水嶺には国境の標識が建てられていて、両国語でその旨記載されていた。それに併せて針金の簡単な柵が続いている。ここは高地なので警備の人もいない。出国管理事務所はもう少し低い場所にある。両国を跨いで立ってみた。パキスタン側を見ても、中国側を見ても風景が変わるところはない。一つの山塊である。



(写真 2-2-3) 雪原のヤク。



(写真 2-2-4) ヤクの群れ。

国境に立っていて、パキスタン側にヤクの群れを見た。50頭くらいがゆっくり移動している。ガイドに聞くと放牧しているのだそうだ。こんな場所に餌になるようなものがあるのだろうか？そう疑問に思うほど一面の雪原である。牧童らしい人も見かけない。

クンジュラブ峠は5000m弱という今まで私が体験した最高高度である。あまり長く居なかった、いや長く居なかったが紺碧の空に白い雪原、それに黒いヤクの群れという印象に残る風景でした。